

# 真庭なりわい塾の目指すもの

真庭なりわい塾

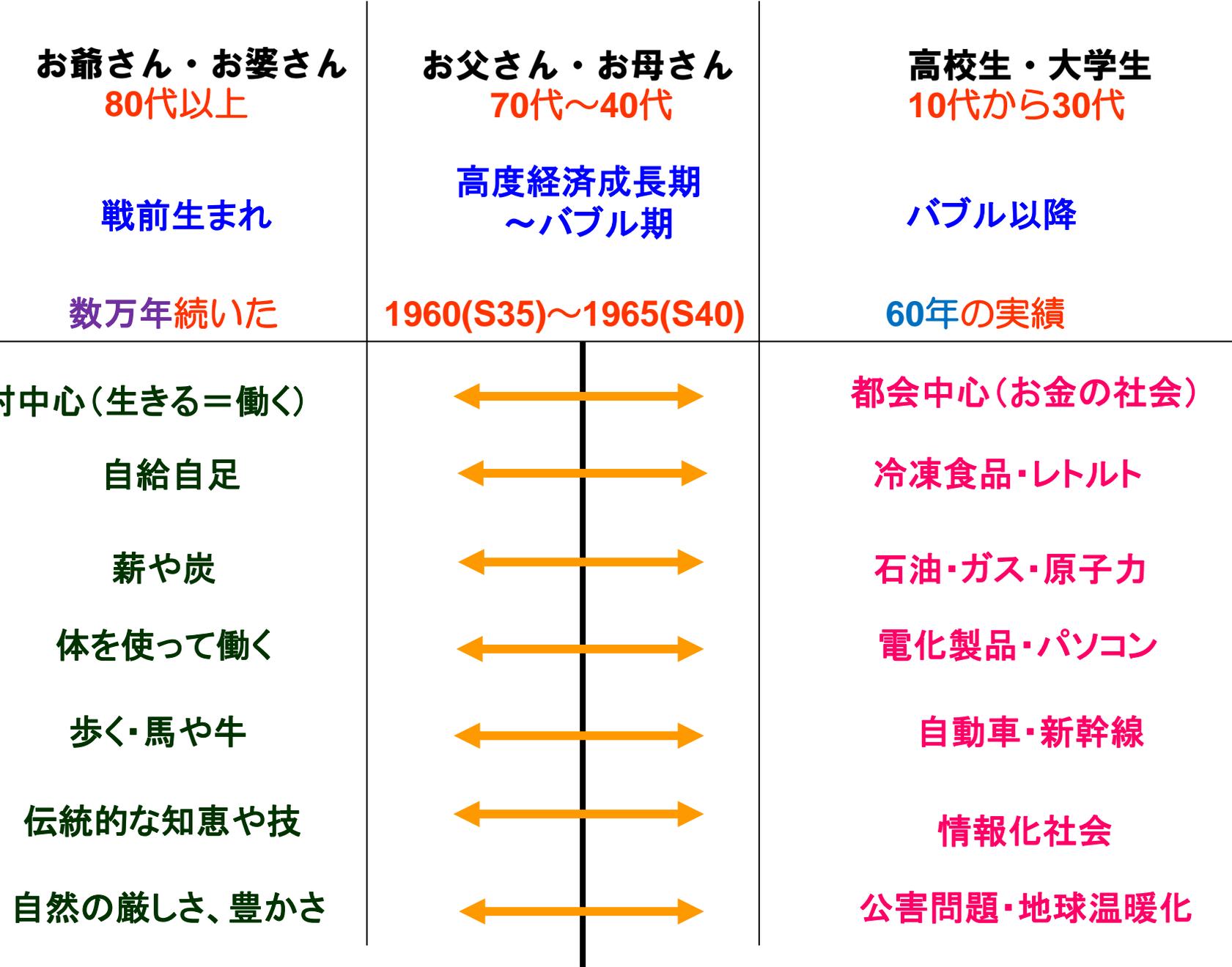
澁澤 寿一

(2021/8)



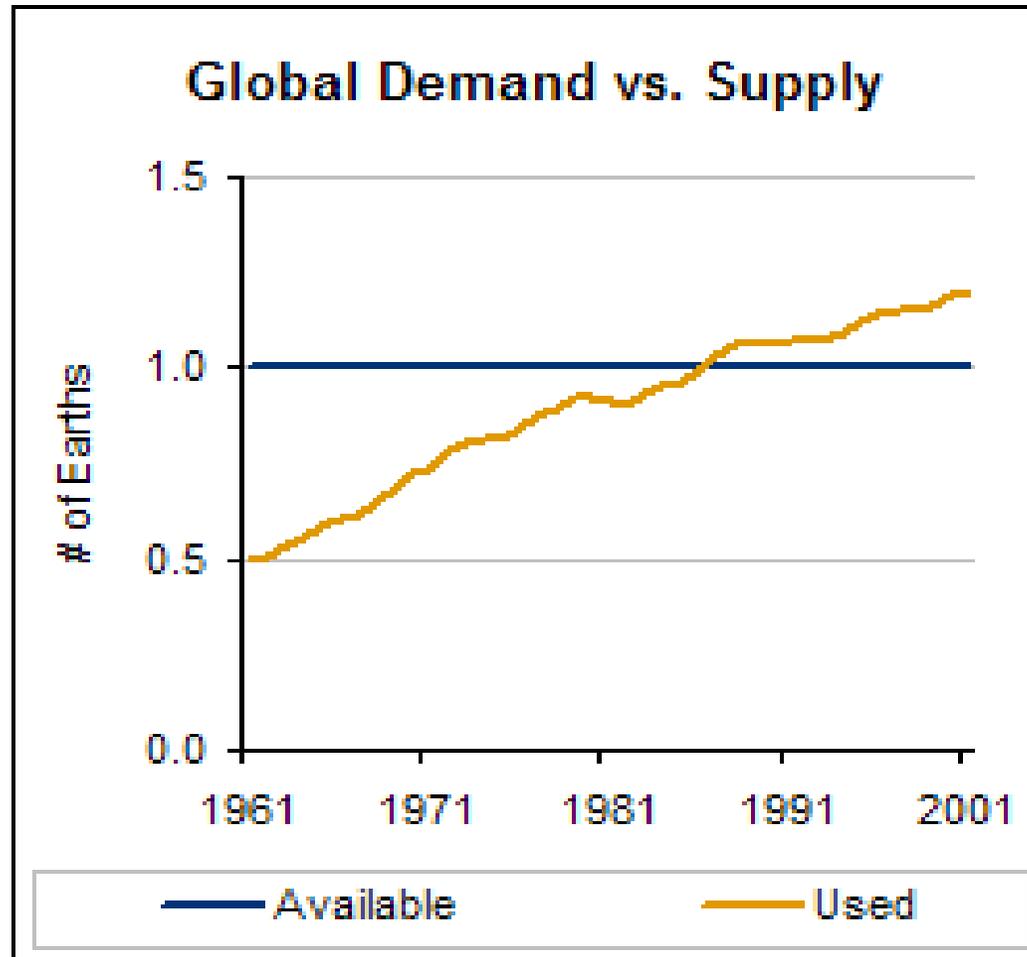
聞き書き甲子園

2002年～現在



# エコロジカル・フットプリント

—地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか)—



75億の人間が、  
日本人と同じ暮らしをすると、  
地球が、**3**個必要

# 60年間で生まれた、社会の問題

## 農山村(自然資本の世界)の問題

- ・過疎化
- ・高齢化・少子化
- ・都市との所得格差
- ・教育環境
- ・医療
- ・働く場
- ・水と食料の自給
- ・バイオマス・水力・風力・太陽

## 都市(お金の世界)の問題

- ・空洞化(巨大団地)
- ・退職高齢者の役割・居場所
- ・食の安全・安心(確保)
- ・ストレス・不安・落ちこぼれ
- ・健康・感染症
- ・若者の雇用・働く場
- ・生存の基盤は海外依存
- ・エネルギーの海外依存

## 人口減の社会、AI・IOT社会の新しい働き方

(目指す姿)・新しいライフスタイル(価値観)の構築

・新しい社会のための、教育、福祉、エネルギー(経済性だけでない価値)

# 子供たちの未来に関する予測

子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い

マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

2030年までには、週15時間程度働けば済むようになる

ジョン・メイナード・ケインズ氏（経済学者）

# SDGsの序文

「**経済**」「**社会**」「**環境**」の調和により、我々の世界を**変革**する！

我々は、貧困と不平等を終わらせる**最初の世代**になりえる。

同様に、地球を救う機会を持つ**最後の世代**にもなりえる。

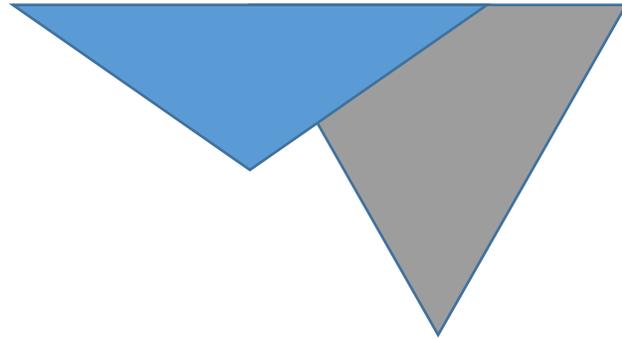
(2030年まで人類滅亡への引き返せない最終点を越える)

これまでの60年

持続可能な未来

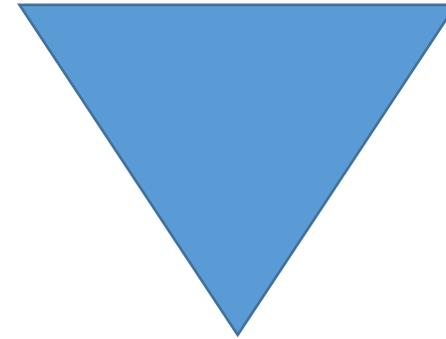
経済

社会



経済

社会



環境

環境

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「誰も置き去りにしない」

誰もとは、人も、自然も、そして子孫も...

インクルーシブな社会の実現

グローバル経済のもと、競争社会で可能か？

私たちの知る唯一つの「**持続可能な社会**」

それは、「**先祖**」から続く、今の「**あなた**」

縄文時代から1万年、  
何が変わらなかったか!?

自然の成長量に合わせた暮らし

「自然の利息で暮らす」その知恵と心



## 持続可能な村「鶺養」

(江戸時代から**飢饉**で、**餓死者**が**いない**)



**萌芽**

**(34年)**

**株立ちの木**





斜面の、みどりは「ワラビ」

# ワラビ(蕨)



# 山村の暮らし

## 生きるすべてを自然から調達

- ◎ 豊かで清涼な**水**
- ◎ 田畑に入れる**肥料**
- ◎ 牛や馬に食べさせる**飼料や敷料**
- ◎ 日々の煮炊きや暖房に使う薪や炭(**燃料**)
- ◎ ヒエやソバなどの**食糧**(焼畑、循環利用)
- ◎ クリやトチなどの木の实(**主食**として扱われた地域も見られる)
- ◎ 山菜やキノコ(**保存食**)
- ◎ 建材や屋根を葺くための茅(**建材**)、護岸を補強する(**土木材**)粗朶(そだ)や柴
- ◎ 駕籠やロープになる**蔓や蔦**
- ◎ 衣服の糸となるフジ、クズ、イラクサ(**繊維**)
- ◎ 紙を漉くためのミツマタ(**繊維**)
- ◎ 農具や生活**用具**
- ◎ 商品になる和紙や木工品(**現金収入**)
- ◎ 薬になる草木(キハダ、ウワミズザクラ、オトギリソウなど..**薬**)
- ◎ 現金や食料となるクマやシカなどの**哺乳動物、魚や鳥やサンショウウオ**

# 山形県小国町金目の栗林

- 「栗林1町、家1軒」の伝承

クリの収量 ..... 10トン／1ha(1町)

クリの生り年 ..... 2年に一度(隔年)

クリの平均収量 ..... 5トン／1ha／年

クリのカロリー ..... 1,560kcal／キロ

1年間のクリの消費 ... 5トン÷365日÷ 10人(1家族)

= 1,37キロ/日/人

= **2,140kcal**/日/人

成人男子の基礎代謝量 ... **1,500kcal**／人

成人男子の平均代謝量 ... 2,550kcal／人

人と自然の関係

「人の心の仕組み」

堰(せき)

身体性の世界

(モラルの醸成)



# 村の暮らし

自分の五感で暮らしをチェック

見る・食べる(飲む)・触れる・聞く・匂いを嗅ぐ

水・食料・エネルギーの自給

「自分の命が、どこに繋がっているかを、絶えず自分で確認する」



生きるリアリティー

(**身体性**の社会・モラルの形成)

# 都市の暮らし

他人まかせ（行政、企業、システム）

生産と消費の乖離

水も食料もエネルギーも、誰かが供給してくれるもの（依存社会）

「自分の命は、バーチャルな空間に漂う。」

他人の命は、リ・セット可能」



生きるリアリティーの欠如

（思考の中の社会・モラル・ハザード）



奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林



**雑貨屋にみる「経済・社会・環境」の調和**  
**「ありがたさ」と「煩わしさ」の狭間**  
**(**こころ**の立ち位置)**

# 関係性喪失 「無縁社会」という現実

- 人と人の関係性

家族間、友人間、組織内、地域内。「**今だけ・お金だけ・自分だけ**」

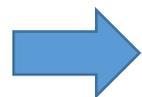
「孤立社会」、「LINE社会（貧情報社会）」

- 人と自然の関係性

生産と消費の分離、自然を知らない消費者

- 世代を超えた関係性

これから生まれる世代に対する配慮の無さ、無関心



**持続可能社会の崩壊**（経済性、効率性のみが優先）

## 無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 「私らしさ」の喪失

「無関心」「無視」「面倒くさい」

これは愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、「憎しみ」ではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

地域の**自然**、**祖霊**、**神々**には「無関心」

他人を「無視」、他世代は「面倒」

「**愛**」のきっかけは「**興味を持つ**」こと！

**持続可能な社会**をつくるには、

**人と人**、**人と自然**、**世代と世代**が、つながること

→ つながるには、お互いが**関心**と**共感**を持ち合う社会

(**関係性づくり**→**幸せ**な社会)

# 岡山県真庭市

## 地域概要

—平成17年(2005年)3月、勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村、北房町の9町村が合併して誕生

—人口 約45,000人(岡山市の1/16)

面積 828.43平方キロ(岡山市とほぼ同じ)

—北房地区面積は、真庭市の約10%



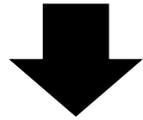
○平成18年「バイオマスタウン」認定

○藻谷浩介氏とNHK取材班

「里山資本主義ー日本経済は安心の原理で動くー」

○「真庭バイオマス発電所」(1万キロワット)稼動

CLT (Cross Laminated Timber)も本格化



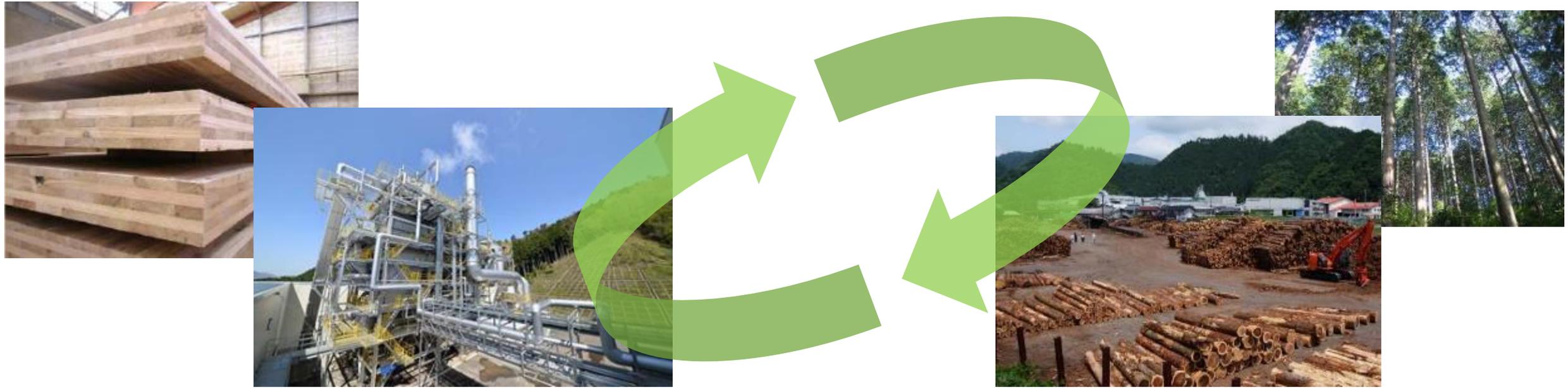
○「大きな里山資本主義」は林業・製材業中心

○里山景観が広がる田園地帯は

「小さな里山資本主義」を目指す



# 里山資本主義ー木材と木質バイオマスを活用した産業づくりー



- ◆地域内エネルギー **自給率30.2%**
- ◆石油代替量約13,400kl/年を達成  
重油を75円/lと想定すると **年間10億円地消**
- ◆CO2削減量約351,000t-co2/年を達成

- 地域外購入→地域内生産消費  
関係者の連携による、配送システム確立とエネルギーの自給
- 木質バイオマス活用→森林資源の見直し  
林業の活性化と山村の再生  
(**年間2億円が山に**)

## 木質バイオマスの学び（関係性の構築）

- ・ **木**は、かさ張る、汚い、重い（**煩わしい**） → **地域内消費**がベスト
- ・ **収集・運搬システム**が重要 →  
**誰が、いつ、いくらで、どのように・・・地域で決定・関係性の再生**
- ・ 地域のモノ、サービスに、地域住民で価格をつける＝地域の価値付を、地域で。  
**（地域自治の本質）**
- ・ 地域の経済効果
  - 外からお金を持ってくるか（観光、商品開発・・・）
  - 外にお金を出さないか（エネルギー利用、教育・・・）

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

## 「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ **高度経済成長期の論理**

(現在～これからの20年)  
「 **生きる意味を問う労働** 」  
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされ**、

**自然**の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持ち、

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する。

お金より**共感**や**協働**。共感できなくても、地域で**共生**(自治)。

**Do** より **Be** が大切。働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える・・・

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」

# 地方創生の本質

## － 農山村と都市の共生モデル －

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

農山村の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒ **環境・経済モデル**      +      **生き方のモデル**  
(自然共生社会づくり)      (新しい価値観づくり・人づくり)

**「未来の社会」「幸福」「生きがい」**

皆で考え、実践する。**地域を創生**するには、まず**「人」**

**「真庭なりわい塾」**



昭和35年(1960)